

スイカ耐病性共台‘どんなもん台’の育成

園芸試験場

1 背景と目的

スイカは主にユウガオに接木して栽培されるが、鳥取県では共台を利用したブランドスイカ栽培も行われている。しかし、連作によりつる割病をはじめとする土壌病害の発生により生産が不安定となり、土壌病害に強い台木が求められていた。そこで、平成7年に鳥取県スイカ遺伝資源調査団がボツワナ共和国より採取、世界スイカ遺伝資源銀行に保存している野生スイカ種子を活用し、スイカつる割れ病に強いスイカ共台の育成に取り組んだ。

2 成果の概要

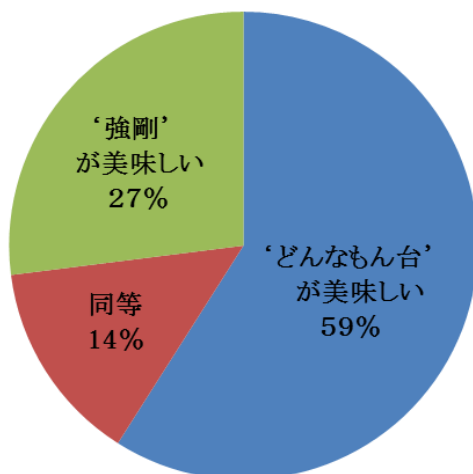
- 1) 平成7年から野生種子を活用して耐病性共台の育成を開始した。ボツワナ共和国由来の約130系統にスイカつる割病菌を接種し、耐病性の高い株の自植選抜を繰り返し耐病性を固定した。その後、栽培特性、現地適応性試験を経てスイカつる割病耐病性で果実品質も優れるスイカ台木‘どんなもん台’を品種登録した（品種登録：平成21年3月6日）。
- 2) ‘どんなもん台’のスイカつる割病耐病性は他の台木よりも高く、萎凋発生が少ない。
- 3) ‘どんなもん台’を台木に用いると果実糖度は従来共台よりも高く、食味も良い。

3 成果の活用

倉吉で生産されている共台ブランドスイカ「極実スイカ」の台木として平成20年から全面的に導入された。その結果、つる割病による連作障害は減少し、現在も約9haで利用されている。

4 残された課題

‘どんなもん台’はスイカつる割病以外の土壌病害の耐病性の付与はなく、黒点根腐病発生ほ場では急性萎凋症が発生する。このため、これまで選抜した野生スイカ系統の中から黒点根腐病に耐病性のある系統を利用して、スイカつる割病以外の土壌病害耐病性も有した台木育成に現在取り組んでいる。



スイカの食味パネルテストの結果



‘どんなもん台’による急性萎凋症防止
(倉吉現地ほ場)